

次代に責任!

～愛されるまち神戸を「西区」から～

神戸市会議員

西区

いつも地域に

かじ幸夫

市会報告

Vol.11
2025



事務所: 神戸市西区王塚台7丁目105-2
TEL&FAX 078(924)0151
E-mail kajiยุกio2019@gmail.com

編集・発行/こうべ未来市会議員団

〒650-8570神戸市中央区加納町6-5-1 TEL 078 (322) 5844 FAX 078(322)6161

令和7年度神戸市当初予算に対する 会派要望〔要約〕

震災30年を迎え、復興の想いを共有し改めてきずなや繋がりの大切さを確認する一年となります。神戸の未来のために、そして市民のより豊かな暮らしを実現するために、「未来への人づくり」「未来へのまちづくり」の視点で、市の財源を活かした積極的な投資を求めます。

まず、人づくりとして、未来の宝である子どもたちが主役のまちをつくること。生きていく基礎を養う学校教育や子どもたちの居場所づくりなど、生活全般を支える仕組みの拡充をすること。また、障がいや高齢によるハンディキャップがあっても、誰もが自分らしく生きていけるよう重層的な支援を構築することなど、人にやさしい施策の実現を求めます。

そして、まちづくりとして、公共交通をはじめとした社会インフラの整備、水素を活用した脱炭素社会に向けた施策の実現、ドローンやロボットなど、次世代技術やテクノロジーを活用した産業の構築等、活力あふれる神戸を創造する施策の実現を求めます。

未来を見据えた神戸のまちづくりのために『未来への投資』が積極的に行われるよう、わが会派の要望を反映した令和7年度の予算編成となるよう期待します。

各局室別(19局)の要望内容について
こちらをご参照ください



会派による久元市長への予算要望(12/16)

会派として予算要望を取りまとめ、久元市長に対し直接手交しました。

その際、各議員から個別に要望を申し伝え、

かじ幸夫からは、①都心ウォーターフロントのアクセス向上に向け連節バス「ポートループ」の増車に向けた補助、②LRT(次世代型路面電車)の可能性について意見要望を申し入れました。



予算市会への取り組み



2月18日(火)に2月議会が開会し、令和7年度当初予算及び関連議案が上程されました。かじ幸夫は、会派を代表して本会議代表質疑を行い、その後、予算特別委員会では第1分科会に所属し、①地域協働局、②都市局、③交通局、④建築住宅局に対し質疑を行いました。

本会議における会派代表質疑

2025年
2月26日

1. 人材の確保について
2. 防災意識の向上について
3. 子どもの体験活動の充実について
4. 六甲山の活性化と資源循環の取り組みについて

以下、
質疑議事録〔抜粋〕

質疑模様
動画配信



1. 人材の確保について

かじ幸夫 昨年8月人事院勧告により国家公務員の地域手当が見直された。神戸市でも級地区分の見直しにより引き下げの指定が行われたが、次年度については維持されることとなった。今後、市として持続可能な成長を実現させるためには、**市民から信頼される優秀な人材の確保が不可欠**であり、処遇の改善や働き方改革など、優秀な人材の確保のためどのように取り組んでいくのか。

久元市長 優秀な人材の確保のためには処遇の改善が必要。地域手当の引き下げが示され、東京や大阪への人材の一極集中を招く勧告に多くの自治体から疑問が上がっている。本市としては、人材確保に影響がないよう次年度は現状維持とした。以降の取扱いについては十分検討したい。処遇の改善に加え、神戸市で働く魅力を高めていくとともに、情報発信を積極的に行うことで優秀な人材確保につなげたい。

かじ幸夫 **地域手当の級地区分**が他に影響を与えるものがある。**認定こども園などへの給付費である公定価格はこれに準拠**しており引き下げの危惧がある。新年度からの引き下げは見送られたが、今後の見通しは不透明だ。**介護の分野でも、報酬の単価設定に級地区分が適用される**ことで、給付費が減額される危惧がある。市として、保育・介護人材等の処遇の維持向上に向けて、国へ働きかけるべきと考えるがどうか。

久元市長 保育・介護事業に地域手当の級地区分が連動するという仕組みが極めて疑問だ。指定都市市長会で議論し、関係省庁に強く求めてきた。非常に大事なテーマであるので、政治の力も借りながら、引き下げられることがないよう強い決意を持って臨んでいきたい。

かじ幸夫 市内企業等においても優秀な人材を確保することは重要だ。処遇改善にあたる給与の原資として、労務費の上昇分が適切に取引価格に転嫁されているのか疑問だ。国の調査では、原材料価格に比べて労務費の転嫁率は低いと出ている。総務省は「地方公共団体が行う契約について、人件費等の最新の実勢価格等を踏まえた適切な予定価格で策定すること」としている。**市の指定管理を受ける事業者や市と契約をしている民間事業者で、労務費の上昇分が適切に転嫁されているか**調査するなど、市として事業者の環境構築に積極的に取り組むべきと考えるがどうか。

副市長 本市の予算編成において各局に対し、物価高騰を踏まえた適正な予算措置に取り組むよう伝えている。工事請負なども国交省の労務単価を反映させて工事費の積算を行っている。委託業務、指定管理者については、市と契約する事業者には労働基準法や最低賃金法などの労働関係法令の遵守を義務づけることなど契約約款に明記している。今後も市として必要な対応を行っていく。

2. 子どもの体験活動の充実について

かじ幸夫 子どもたちが直接自然や人、社会等と関わる活動である体験活動は、個々の成長に欠かせない教育活動である。近年、家庭の経済的な事情等により**子どもたちの体験機会の格差が問題視**されているなか、**学校教育における体験活動**は、この課題を補完するべく一層重要性が高まっていると考える。体験活動の機会や質を充実させていくために、今後どのように取り組むのか。

教育長 体験活動については、児童・生徒の社会への関心・興味を高め、探求心や向上心、さらには達成感や感謝の心が育まれるなど教育的効果があるものと考えている。小学校5年生での自然学校、6年生での修学旅行、3年生での環境体験等を実施しており、多様な施設での校外学習等を行っている。中学校でも野外活動、修学旅行、トライやる・ウィークなどを実施している。引き続き、子どもたちの可能性を広げる豊かな体験学習に取り組んでいきたい。



かじ幸夫 小学5年生の自然学校は、過去4泊5日だったものが現在は2泊3日で行われている。小学4年生では過去に1泊2日の宿泊学習があったが、現在実施されていない。市として、宿泊を伴う体験活動事業に積極的に取り組むべきと考えるがどうか。

教育長 自然学校については、コロナ禍を受け4泊5日から2泊3日に変更した。内容を精選して従前と遜色のない活動ができており、4泊5日での様々な課題も一定解消できている。加えて、日帰りの体験活動を充実させており、それぞれの学校の子どもの実情に応じて工夫して実施している。宿泊は子どもたちにとってインパクトの強いものだが、様々な背景を抱える子どもに配慮しながら、宿泊体験と日帰り体験の両方を充実させることで、子どもたちの健やかな成長につながるよう取り組みたい。

かじ幸夫 活動に係る**貸切バスの金額が高騰**している。そのため活動を見送る場合もあると聞いており、**必要な予算措置**をしっかりとっていただきたい。

予算特別委員会 各局審査(かじ幸夫担当分)

3月4日
地域
協働局

1. 神戸市立地域交流センター条例について
2. 神戸市民のくらしをまもる条例の一部を改正する条例の件について
3. ふれあいのまちづくり協議会について
4. KOBEシニア元気ポイント事業の移管における体制確保について

以下、
質疑議事録(抜粋)

質疑模様
動画配信



地域福祉センターについて

かじ幸夫 市内194か所ある地域福祉センターは4割近くが築40年と聞く。エアコン更新、トイレ改修、バリアフリー化、また日常の細かな修繕など対応されているが、今後地域交流センターとして安全・安心、そして**快適に利用いただくために、リニューアル、リノベーションなど計画的に取り組むべき**と考えるがどうか。

当局 公共施設等総合管理計画に基づき計画的な施設維持に向けた修繕を行っている。地域福祉センターについても改修等について優先順位をつけ計画的に対応している。具体的には、和室の洋室化や間取り変更などのリノベーション、またトイレの洋式化や電気のLED化など適宜行っている。今後も公の施設として安心・安全に御利用いただけるよう必要な予算の確保に努め、計画的に実施してまいりたい。

「神戸市民のくらしをまもる条例の一部を改正する条例の件」について

かじ幸夫 これまで消費者基本計画を策定しなければならぬとされていたものが、改正案では計画策定を取りやめるとある。経緯を伺いたい。

かじ幸夫 計画をなくすことで消費者行政が後退すると市民は不安を感じる。**市として計画がなくなっても消費者行政は後退させないと確認しておきたい**がどうか。

局長 条例制定50年を迎え、社会情勢の変化に十分対応できていない部分を見直すもの。計画期間中にも消費者問題は変化し対応し切れないこと課題であった。計画にとらわれず迅速に取り組んでいくこととした。

当局 基本計画に代えて迅速かつ柔軟な施策の実施として条例に明記し、より積極的かつ迅速に消費者行政を進めていきたい。令和8年度以降、市として重点的に取り組むべき課題などの大枠について取組方針を策定し、わかりやすく公表していきたい。



3月5日
都市局

1. 海岸線沿線の活性化について
2. 地域コミュニティ交通について
3. 六甲山・摩耶山における回遊性向上について
4. 新産業団地について

以下、
質疑議事録(抜粋)

質疑模様
動画配信



地域コミュニティ交通について

かじ幸夫 市アプローチ型の地域コミュニティ交通導入促進が実施されているが現状について伺いたい。

局長 アプローチ型支援として、取り組みを先導していただく地域の担い手確保が課題。地域全体の機運醸成を図り、地域コミュニティ交通の実現に向けた活動の場が大きく広がるよう伴走型支援を進めていきたい。

かじ幸夫 導入支援業務の外部委託を採用し、導入地域の拡大と多様化する課題への対応を図るとされている。委託費に加え路線拡大に伴う財政支援の増加が見込まれることから、**将来に向けて持続可能な予算を確保し続けることができるのか**見解を伺いたい。

局長 地域コミュニティ交通が必要となる地域は今後も増えると予想している。地域交通を維持していくために持続的に必要な予算の確保に努めたい。例えば、デマンド運行の採用や自家用有償運送、さらには民間施設の送迎バスの活用などの導入に努めていきたい。



かじ幸夫 財政支援に加え沿線住民を中心に利用して支えていただくことが大切。**マイカーから公共交通への需要誘導、意識転換の取り組み**も合わせた施策としてもらいたい。

3月7日
交通局

1. 神戸市営交通事業経営計画について
2. 未利用資産の活用について
3. キャリアプランについて
4. バス運転士の確保について

質疑模様
動画配信



以下、
質疑議事録(抜粋)

神戸市営交通事業経営計画について

かじ幸夫 令和7年度には次期経営計画策定に向けた議論が始まる。現段階における目指すべき方向性について考えを伺いたい。

局長 交通局を取り巻く経営環境は、大型投資を必要とする高速鉄道事業、また自動車事業においても、路線維持のための運転手の人材確保、老朽化したバス車両の大量更新を控えており大変厳しい。次期経営計画では、コスト構造改革や収入増に向けた取り組み、また投資規模の適正化による収支バランスの向上、実行するための組織と人材の育成による事業基盤の見直しや改善が重要だと考えている。



かじ幸夫 計画における財政収支計画策定にあたっては、運輸収入の根幹となる**乗車人員の適切な推計**や、様々な**割引制度等が本来の主旨目的に照らし財政効果として十分に発揮されているか**の検証は必ず行うべき。また、普通料金そのものがサービス供給に伴って適切なのか、事業の持続可能性は担保できているのか財政のあり方を踏まえ計画策定すべきと考えるがどうか。

局長 運賃がサービス供給に伴う必要経費に照らして適切であるのかどうか、事業の持続可能性が確保できる水準なのかどうか、交通事業審議会の答申では、運賃改定の必要性も指摘されており、あらゆる可能性を否定せず、経営基盤の強化に向けた検討を進めていきたい。

かじ幸夫 高速鉄道事業における料金施策について、民間事業者が導入したバリアフリー導入に係る料金改定や、過去消費税改定分について転嫁を見送ってきた経緯も踏まえ、持続可能な市営地下鉄とするべく真摯に議論してもらいたい。



3月10日
建築
住宅局

1. 「第3次市営住宅マネジメント計画」
2. 市営住宅の附帯施設の有効活用について
3. 市営住宅の入居申し込み方法の改善について
4. 老朽空家等解体補助制度について
5. 管理不全空家空地の指導等について

質疑模様
動画配信



以下、
質疑議事録(抜粋)

市営住宅の附帯施設の有効活用について

かじ幸夫 市営住宅の附帯施設には、店舗、作業所、倉庫などがある。今回、条例改正で入居者資格等の規定を追加するとしている。現状、**空室の施設を有効活用する取り組み**だと考えるが、詳細について伺いたい。



局長 市営住宅の附帯施設については、全480区画のうち168区画が空き区画となっており、この活用に向けて居住支援法人等が住宅確保要配慮者の一時的な居住の場の提供や見守り、交流などの生活支援を行う取り組みに向けて調整を進めてきている。条例改正後は、利用用途などの要項を策定し広く利用者を公募するなど積極的に取り組んでいきたい。



神戸市内公園に バスケットゴール 設置が進む



かじ幸夫は、令和5年第1回定例会市会（2025/3/23）の一般質問において、子どもたちの居場所として、市が管理する公園への「バスケットゴール」設置を申し入れました。

かじ幸夫 神戸アリーナが2025年オープンに向け整備が進められている。整備後は、プロバスケットボールチームが神戸に拠点を移すとのことであり、プロチームと連携しながら、子どもたちがスポーツに触れる機会を市内各地域で増やしていくべきと考える。

西区の西水環境センターに唐熊公園がある。ここの敷地を使ってバスケットゴールを設置ができないか。いま公園でなかなかボールが使えないということを市民から指摘されるが、広い敷地であれば可能ではないかと考える。唐熊公園を含め多くの公園にぜひ整備をお願いしたい。

久元市長 子どもたちがバスケットボールに親しんでいくために、公園の中でバスケットボールのゴールを増やしていくことや、バスケットボールも含めて子どもたちが公園でボールを追いかけるような姿が、もっと増えるようになればと願っている。

副市長 今後、公園の利用状況であるとか、地域のニーズ等を把握した上で、バスケットゴールを設置して3on3コートを整備するなど活用を図ってまいりたい。



その後、バスケットコート・ゴールの設置について予算が確保され、
バスケットゴール倍増プラン
をもとに令和8年度にかけて整備が進みます。



バスケットコート 各区に1か所目標



バスケットゴール 市内100か所目標

※西区内には現在、コート1か所、ゴール10か所が整備済み。
令和7年度に4か所、令和8年度に5か所整備予定です。

利用される皆さんには、
まわりの公園利用者や、
特に幼児・子どもたちに
十分ご配慮いただき、
譲り合って
ご利用いただきたい
と思います。



神戸空港の国際化

～神戸とアジアが近くなります～



神戸空港第2ターミナル 完成予想図



令和7年4月18日より、国際チャーター便として神戸と韓国・中国・台湾を結ぶ路線で週40便の運用が始まります。今後、さらなる就航都市の拡大を目指としています。経済・文化交流がさらに活発になり、**国際都市・神戸のまちがさらに発展**していくことを期待しています。

地域防災の担い手への支援が拡充 ～防災士資格の取得助成制度の導入～



地震や豪雨など激甚化する災害への対応については、**地域における防災力の向上**が大切です。これまで会派を通じて申し入れてきた防災士養成について予算化が実現しました。安全・安心な市民生活を維持していくため、**平日頃から防災意識を高めましょう。**



かじ幸夫 2020年4月認証

かじ幸夫 防災士資格の資格取得支援については、昨年の本会議等で我が会派から制度創設の要望をしてきたところであり評価している。防災士に期待をする役割、資格取得者数の目標や計画等、見解を伺いたい。

副市長 防災士は、災害時の避難所運営など、地域の防災力の担い手となることが期待されている。市として、防災福祉コミュニティ等の地域の方々がこの防災士の資格を取得することで、地域防災力の強化の一助となると考えている。平時においても、防災訓練などを通じ、長期にわたって地域の防災力向上の担い手となっていただけることを期待している。資格取得者数の目標として、各防災福祉コミュニティで複数名の方に資格取得していただければと考えている。

かじ視点



中学生の部活動が 変わります

「部活動がなくなるんですか？」

このようなお問い合わせが増えてきました。神戸市では、**2026年度に部活動を終了**し、生徒が地域の方々とともに活動する「神戸の地域クラブ活動」

「**KOBE◆KATSU**」(以下、**コベカツ**)を開始することとしています。

部活動の現状として、生徒数の減少等による廃部や、単独で試合に出られない学校が大幅に増えているなどが見受けられ、今後、生徒の活動の選択肢がさらに少なくなることが危惧されています。

かじ幸夫は、現状でも学校ごとに**種目や部活動数にバラつき**があること、少子化による**廃部・休部が加速**していること、必要な教育活動として学習指導要領に記載がなく、**教員だけで対応する仕組みとして限界**であること：などを勘案し、コベカツとして部活動が地域移行していくことについて、教育委員会が発信する正確な情報をもとに丁寧にお話しすることに努めています。

コベカツへの移行後は、**スポーツ分野、文化分野とも、より多くの種目が提供される**こととなり、校区に関係なく、生徒が多様な活動から「**やりたいこと**」を**主体的に選択し参加**できるようになります。また、これまで部活動に無かった**新種目や気軽に取り組める活動**など、ニーズに合った活動の場も提供されることとなります。

これまでは部活動の地域移行に関する情報が不足していたことから、小学生を含む児童・生徒・保護者の皆さんには大きな不安があったことを伺っています。現在、教育委員会や各学校から細かな情報提供が発信されており、未定や検討中の部分についてもできるだけ早く考え方を周知するよう申し入れているところです。

もう一つ、注視しておきたいことは、これまで部活動を通じて**生徒と人間関係を構築し、学校教育における生徒指導などに活かしてきた一面**があったことです。そして、そのことに**やりがいを感じている中学校教員**がいることについて十分な配慮が必要です。スポーツ・文化活動を通じて生徒に関わり続けたいという強い思いの教員がいること、教員のキャリアとしての指導力向上に繋がること、教員を続けていくモチベーション醸成に寄与することなどを踏まえ、**教員自身も柔軟にコベカツに参画できるような枠組みの形成が必要**だと考えます。

コベカツが、すべての中学生にとつて放課後や休日をも有意義に過ごすことができ、活動の場となるよう、2026年9月の完全移行に向けて精力的に意見反映に努めていきます。

